

# 会 議 録

会 議 名	令和 6 年度第 3 回 辰野町図書館協議会
開 催 日 時	令和 7 年 2 月 27 日 (木) 午前 9 時 00 分～9 時 45 分
場 所	辰野町立辰野図書館 2 階会議室
出 席 者	委員 6 名中 6 名 (事務局：宮澤教育長、福島館長、辰野図書館職員：千田・山村)
会 議 次 第	<p>進行 課長</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会のことば</li> <li>2. 教育長あいさつ</li> <li>3. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和 6 年度図書館利用状況</li> <li>2) 令和 7 年度図書館事業運営・予算</li> <li>3) その他</li> </ol> </li> <li>4. その他</li> <li>5. 閉会のことば</li> </ol>
会 議 結 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和 6 年度図書館利用状況</li> <li>2) 令和 7 年度図書館事業運営・予算 辰野図書館職員から一括説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>3) その他</li> </ol> </li> </ol>
発 言 者	発言の内容
教 育 長	<p>改めましておはようございます。</p> <p>今年は立春を過ぎてから強烈な寒波が来て、春の訪れが少し足踏みしてしまった感じがあるが、ここへきてようやく動き始めてきた。来週また雨か雪かと言っているが、天気が頻繁に変わるようになり、春が近づいている感じがする。</p> <p>さて前回 12 月、ちょうど 2 ヶ月前にこの第 2 回目の図書館協議会があった。あれから 2 ヶ月の間にこの日本周辺や世界情勢を見ていくと、互いが内向きというか自国優先、周りとの協調や協力、調和というのが限られてきているような気がする。このままいくとどうなるのかという心配がある。アメリカ、ドイツ、ロシアにしても。これから日本も大変になってくるのではないかと。そんな風に思っているのは多分私だけではないだろう。その一方で、社会がどんどん変わっていく中で図書館を見たとき、社会の変化に合わせて対応を変えていくのが求められているのではないかと。ただ本を紹介して待っているだけでなく、何か訴えていくものが必要になってくると思う。住民が求めているものに対して応えていく、一方で今の社会がどんどん変わっていく中で、このままではいいのかということをも改めて住民に訴えていく、そういう図書館のあり方もあっていいと思った。</p> <p>前回の図書館協議会でも話題になっていたが、今年が戦後 80 年。図書館でも様々なイベント企画が用意されている。こういうことを図書館から訴えていく、これが一つの大きな使命なのではないか。日本の平和であっても、実はこれは当たり前ではない。最近の世界情勢から我々も学んでいる。そういう意味で住民にも新たな視点で訴えてい</p>

	<p>く、そういう図書館でありたいと思った。</p> <p>これから今年度最後の図書館協議会。よろしくをお願いします。</p>
会 長	<p>おはようございます。</p> <p>今年度最後の協議会。この会がとりあえず終わって、私達の1年間の仕事も終了する。教育委員会の皆さん、図書館職員の皆さん、大変お世話になった。ありがとうございました。</p> <p>ここ半年の間にどんどん物価が上がり、主食の米が倍以上、野菜も。非常に厳しい経済情勢の中で、町の予算も非常に厳しいかと思う。そんな中で、図書館の蔵書の質にしても、職員の皆さんによる様々な節目ごとの企画、また日頃から来館者に対するホスピタリティの高さ。これはあまり表だって声は聞こえないかもしれないが、来館者の皆さんからお褒めの言葉をいただいている。私としても図書館としても、誇らしく思えることである。</p> <p>そんな中で、教育長さんからもお話があったように、いろんな意味で社会に訴えかけていく、そういう図書館づくりをもっともっと皆さんで力を合わせながら進めていかなければならない。協議会としても精一杯のことをさせていただきたい。</p> <p>この後、協議事項に従って進めさせていただく。</p>
事 務 局	(1)～(3)を一通り説明)
会 長	今の説明に何か質問や意見、感想があれば。
委 員 A	<p>えほんのへやについて、保育園に来てもらうのはとてもいいことだと思う。図書館に行って聴くという癖付けができると、今後にもつながっていくと思う。</p> <p>予約と貸出がリンクできていない、予約しても回転が遅く諦めてしまうのではないかな。厳しいかもしれないが、人気の本は複本で入れるのもいいのではないかな。</p> <p>利用者数について、年代別や性別でみるのが大事ではないかな。貸し出されている本を見ると、利用者は中高年が多いと思う。図書館の三原則を見直し、来られている方に手厚くなってしまっても貸出数は伸びない。来ない人たちにいかに来てもらうかを考えていかなければならない。</p> <p>どうして小さい子に来てもらうかという、今図書館の貸出数を背負っている方は中高年の方々。その下は先細りで無いということになってしまう。図書館を利用する癖をつけないといけない。小さい子や中高生を手厚くしていかないと、「図書館に来て自分たちの借りたい本があまり無い」「リクエストをしても入れられない」ということになってしまう。そうなるとこの先「図書館に行ってもダメ」という気持ちになり、大人になって子育てのときに「図書館に行こう」という発想になるかどうか、これを心配している。学校でも一生懸命取り組むが、学校だけでは回せないものがある。そういう本が町図書館にある、入れてもらうと相乗効果でより良く回っていくと思う。誰のためにするかをもっと深く考える、だから年代の検証が必要だと思う。あらゆる年代の人が来て、いいなと思うことが図書館に何かあることが一番大事。</p> <p>学校の中は、子どもたちがパソコンやネットで動いているのを、いかに紙の本に連れてくるか、読んでもらうかを考えていかなければいけない。でも時代にも合わせた本の内容、ある程度リクエストは入れていく。同窓会でいただいているお金を選書会で使っている。去年初めてやり今年が2回目。今年自分たちで選んだ本があることで、企画が浸透してきて子どもたちが借りてくれる。100冊近く入れてあ</p>

	<p>るが、3分の2弱くらいが常に動いている。企画としては、選書会用の本を偏らないように選書しておくような配慮が必要だが、一人1冊程度選んでもらい、それを入れてもらう。自分が選んだ本が1冊でも入ると、興味関心が変わるのではないか。時代に合わせる事が大事だと思う。</p>
委員 B	<p>保育園や学校の現状を聞き、学齢期の子どもたちがどのくらい図書館を利用しているかが資料からは分からない。</p> <p>高齢者として、どのくらいのギャップがあるか知るために、Xで今までフォローしていなかった、いわゆるインフルエンサーと言われる人たちをフォローしてみた。そういう方たちは若者に向け発信し、若者を見ていると思ったので。すごく差があると感じた。アーティストにしても作家にしても知らない人ばかり。今日の資料を見ても、人気著者に名前がある人は、読んだことのない知らない人が多い。辰野図書館の貸出数の多い本を見ると、高齢者の人が借りていると思うものが多い。ただ、人気がある本は、若者受けする作家が多いのではないか。ベストセラーでも複本を視野に入れてもいいのではないか。</p> <p>司書の方々は、文化的資産、知的資産だと思う。知識があり、日頃から利用者と接してる中で、若い方たちの考えが分かれば案を出してほしい。想像しても年代の差は埋められない。若い人たちの声を聞く機会があればよい。</p> <p>中央保育園の取り組みが広がり、子育て支援の取り組みなどのときに、小さい子どもたちが図書館に足を運ぶような連携ができればいいのではないか。</p>
委員 C	<p>学校関係のボランティアをさせてもらっている中で、子どもたちが地域の学習をしている場を目にする。地域が今どうなっているのか、子どもたちに関心を持ってもらうことが大事になってくるのではないか。調べることはいくらでもでき、情報過多と言われて何でも出てくる時代の中で、本がどういう位置づけになっているのかが大切。地域や世の中がどうなっているのか関心を持てるように模索していく必要があるのではないか。</p>
委員 D	<p>えほんのへやを利用させてもらえるのはありがたい。</p> <p>来年度の園児の人数が出てきていて、町の子どもが減っている。未満児は多いが、園児数が減っている中で、子どもたちに図書館や絵本に親しんでももらえるにはどうしたらよいか。移動図書館にしても、0.1歳児は利用していない園も多い。本を壊したり破いたり扱いが心配な親も多く、年少以上のお子さんでも本の扱いが心配で、移動図書を利用しないという方もいる。保育園では毎日読み聞かせをしているので、絵本に親しむことには続けていける。そこが図書館の利用につながっていけるとよい。</p>
委員 E	<p>移動図書の本を辰野図書館で返却できる仕組みがある。返却に来た時に、移動図書とは別に、図書館の本を借りていった。図書館に来ていただく機会を考えると、そこでもつながっていくのではないか。</p> <p>おはなしのへややえほんのへやの参加者を増やすことが課題だが、図書館の方々も努力して色々やってくれるのはありがたい。来年度、新しい「ちいさなホリデイ・くらふと」などで参加者が増えていくといいと思う。</p>
会長	<p>若い人に関心を持ってもらう図書館づくりが課題。どんな立場の人を選ぶか難しいが、本当はこの委員の中にも若い世代の人が一人でもいると良い。何らかの工夫をして、若い人が来ようと思うのはどんな図書館であるかを知る機会があればと思う。また、他の地域の図書館がどんな活動をしているか、どんな成果があるかを学ぶ機会があるといい。</p> <p>戦後80年企画について、あらゆるところから引っ張りだこの方もいるので、早めか</p>

<p>ら準備をする必要がある。戦争体験者の方々が元気なうちにお話を聞きたい。テーマ展示の予定にある「図書館と戦争」について、戦争紙芝居や軍国紙芝居と呼ばれるものが作られた時代がある。研究をされている方のいるので紹介してもらえたらよい。</p> <p>それでは以上で協議の方を終わらせていただきます。</p>
---

閉 会